

平成22年度林業試験研究課題の概要

区分	研究課題名	概要	担当
国 補	(森林保護)新規 ニホンジカの剥皮防止 方法の検討 (H22~H23)	シカの剥皮害についてはテープ等による防除が実施されているが根張り部分の被害は防除できない状況にある。このため根張り部分の剥皮害の防除技術の開発をおこなう。さらにテープ巻の高さの検討を行い低コスト防除技術の開発を行う。	和田
	(造林) 列状間伐等の伐採跡地 における植生の推移に 関する調査 (H21~H22)	近年、高性能林業機械を活用した列状間伐の普及が進められている。しかし、列状間伐は相当程度の伐採幅があることから、その普及を図るためにその後の植生回復状況を把握し、今後の森林・林業施策の基礎資料として活用する。	寺尾
受 託	(機能保全) 森林吸収源計測事業 (H15~H22)	森林の炭素吸収量算出に必要な森林関連データについて、国際的に認知されうるレベルでの効率的かつ確実性の高い収集方法を開発し、これに沿って森林の炭素吸収量を計測する。	小島
	(機能保全) 里山再生に向けた特用 林産物生産技術の検討 (H21~H23)	県内の里山の多くを占めるマツ林やナラ林では、松くい虫やナラ枯れによる森林の荒廃が進み、森林の多面的機能の低下が危惧されている。このため、各種整備が進められているが、残されたマツ林やナラ林そのものの健全化を図る必要があり、これまで獲得してきた特用林産物の生産技術をより進め活用する方法を検討することにより里山の再生を図る。	太田
単 県	(育種) ウツクシマツ遺伝子保 存に関する研究 (H18~H23)	湖南省に自生する天然記念物のウツクシマツが、松くい虫被害により減少してきているため、遺伝形態の解明に取り組んできたが、12年度で見通しがついたことから、引き続いて松くい虫抵抗性ウツクシマツを作出する。	太田
新 税 対 応	(機能保全) 琵琶湖の水源を守る森 林づくりの検討 (H21~H24)	琵琶湖流域の森林が、琵琶湖に対しどのような水源かん養機能を有しているか科学的根拠に基づき、定量的に明らかにしてきた。その中で、新たに懸案となった「地質(花崗岩、古生層)に対応した人工林整備手法の検討」および「琵琶湖流域森林の栄養塩供給に対する定量的評価」を行うことにより、いろいろな森林施業を想定したより精密なシミュレーションを実施し、琵琶湖の水環境の面から森林施業を科学的に評価する。	小島
	(造林) 環境林植生経年調査 (H18~H24)	人工林を強度間伐により針広混交林へ誘導するために行われる環境林整備は本県では新しい取り組みである。このため、強度間伐実施後の育林木や侵入植生等の生態系の変化を調査し、望ましい環境林整備を提言する。	三井
	(林産)新規 滋賀県産スギ・ヒノキ の物理的特性に関する 研究 (H22~H24)	県産材の利用拡大を図るためこれまで把握できていなかった県産材の特性のうち、本県の主要樹種であるスギ、ヒノキについて利用するうえで必要な強度、耐久性等の物理的特性を調査する。	三井